

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成26年2月14日
【四半期会計期間】	第20期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	ワイエスフード株式会社
【英訳名】	Y.S.FOOD CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 緒方 正憲
【本店の所在の場所】	福岡県田川郡香春町大字鏡山字金山552番8
【電話番号】	0947(32)7382（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部長 岩下 征吾
【最寄りの連絡場所】	福岡県田川郡香春町大字鏡山字金山552番8
【電話番号】	0947(32)7382（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部長 岩下 征吾
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第3四半期連結 累計期間	第20期 第3四半期連結 累計期間	第19期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高 (千円)	1,683,857	1,546,078	2,201,487
経常利益 (千円)	2,902	69,424	7,663
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失() (千円)	48,310	40,219	85,792
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	44,660	38,318	82,543
純資産額 (千円)	2,004,730	1,981,076	1,948,950
総資産額 (千円)	4,027,372	4,095,191	3,933,469
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期)純損失 金額() (円)	12.94	11.15	23.04
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	49.8	48.4	49.5

回次	第19期 第3四半期連結 会計期間	第20期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額() (円)	5.28	9.21

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第19期第3四半期連結累計期間及び第19期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第20期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当第3四半期連結会計期間において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額()を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融緩和政策等による景気回復基調が見られ、企業収益や個人消費に改善が見られるものの、消費税率の引き上げ決定による消費低迷の懸念等、先行きは依然として不透明な状況となっております。

外食産業におきましても、一部では個人消費の回復の動きが見られるものの、原材料価格の高騰や企業間における競争激化等、厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは「一杯のラーメンをお客様に満足していただく」という創業当時の理念にのっとり、「美味しさと快適な食の空間」の追求はもちろん、お客様満足度向上のための重要な要素である店舗のQSC（Q＝クオリティ・S＝サービス・C＝クリンリネス）の徹底を積極的に取り組むことで、お客様一人一人に誠実であり続けることに、より一層推進してまいりました。

さらに、過年度より実施しております国内における経営戦略としての「社員独立制度」による企業体質の強化への取り組み、また、店舗売上高の増加の取り組みとして、全国誌を媒体としたキャンペーンを積極的に行うことでブランディング及び集客力の向上を図っており、海外事業におきましても、店舗数が純増していることに伴い、食材出荷量も計画を上回る結果となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は直営店舗のFC化による影響で1,546百万円（前年同四半期比8.2%減）となりました。しかしながら、利益面では、計画通りの固定費を圧縮できたことにより、営業利益については、前年同四半期に比べ64百万円増益の73百万円となりました。

経常利益につきましても、前年同四半期に比べ66百万円増益の69百万円となり、当四半期純利益は、法人税等26百万円の影響により、四半期純利益40百万円（前年同四半期は四半期純損失48百万円）と88百万円の増益となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

(外食事業)

当第3四半期連結累計期間における外食事業におきましては、お客様満足度の向上を第一にQSCの徹底を積極的に取り組み、「餃子190円キャンペーン」及び「全国誌を媒体とした販促キャンペーン」をはじめとする各種セールを実施することで「山小屋」、「ばさらか」のブランディングを向上させ、さらに、地域限定メニュー等を導入したことにより、来店客数の増加に努めてまいりました。

さらに、海外事業の活動内容としましては、海外においてのラーメン事業に対する評価が高く、多店舗展開も進んでいることに伴い、食材出荷量におきましても計画を上回る結果となりました。

また、当第3四半期会計期間において海外での出店が5店舗（インドネシア3店舗、フィリピン1店舗、マカオ1店舗）あり、今後も海外での店舗展開を進め、食材出荷量の増加及び新ブランドの設立並びに食材卸事業等による新たな収益源の確保に注力してまいります。

また、利益面の改善におきましては、過年度から実施しておりました「直営店舗のFC化」及び「不採算店舗の閉店」による固定費の圧縮効果が著しく表れ、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,410百万円と前年同四半期に比べ9.3%減少したものの、営業利益につきましては、前年同四半期に比べ56百万円増益の、109百万円となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の店舗状況は、新規出店が14店舗（FC店5店舗、海外9店舗）、契約満了を含む店舗の閉鎖が10店舗（FC店9店舗、海外1店舗）、直営店からFC店へ変更した店舗が1店舗あったことから、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、前連結会計年度末に比べ4店舗増加して159店舗（直営店12店舗、FC店113店舗、海外34店舗）となりました。

(不動産賃貸事業)

当社が所有する店舗用地等の有効活用を目的とした賃貸事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は41百万円（同0.2%減）、営業利益20百万円（同8.1%増）となりました。

(外販事業)

連結子会社大幸食品(株)が、お客様及び当社にすりごまの製造販売を行っております。

連結子会社ふくおか製麺(株)が、当社の生産する製品を主要販売品目とし、外販を行っております。

当第3四半期連結累計期間における外販事業の売上高は82百万円（同0.5%減）、営業損失23百万円（前年同四半期は営業損失27百万円）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,500,000
計	5,500,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,873,000	3,873,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	3,873,000	3,873,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年10月1日 (注)	3,834,270	3,873,000	-	1,002,050	-	799,750

(注) 株式分割(1:100)によるものであります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 2,873	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 35,857	35,857	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	38,730	-	-
総株主の議決権	-	35,857	-

（注）「完全議決権株式（その他）」欄には、証券保管振替機構名義の株式が2株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
ワイエスフード株式会社	福岡県田川郡香春町 大字鏡山字金山552番8	2,873	-	2,873	7.41
計	-	2,873	-	2,873	7.41

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	517,745	639,597
売掛金	125,667	194,219
有価証券	10,010	10
商品及び製品	101,261	114,106
仕掛品	3,152	4,088
原材料及び貯蔵品	21,465	27,592
その他	66,943	50,350
貸倒引当金	492	1,828
流動資産合計	845,754	1,028,135
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,132,206	1,073,145
機械装置及び運搬具(純額)	77,017	63,148
土地	1,562,857	1,602,647
その他(純額)	18,677	14,987
有形固定資産合計	2,790,759	2,753,929
無形固定資産		
のれん	19,925	4,981
その他	8,384	10,339
無形固定資産合計	28,310	15,320
投資その他の資産		
投資有価証券	25,040	23,704
繰延税金資産	68,673	66,325
敷金及び保証金	118,472	113,923
その他	73,635	112,755
貸倒引当金	17,177	18,903
投資その他の資産合計	268,644	297,805
固定資産合計	3,087,714	3,067,055
資産合計	3,933,469	4,095,191

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	82,380	128,056
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	426,765	425,742
未払法人税等	19,310	18,110
賞与引当金	21,932	13,136
ポイント引当金	1,823	1,741
資産除去債務	1,250	-
その他	213,317	199,214
流動負債合計	966,780	986,002
固定負債		
長期借入金	734,092	847,335
退職給付引当金	66,747	69,288
役員退職慰労引当金	47,492	48,164
資産除去債務	47,376	45,678
その他	122,029	117,646
固定負債合計	1,017,737	1,128,113
負債合計	1,984,518	2,114,115
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,002,050	1,002,050
資本剰余金	799,750	799,750
利益剰余金	181,038	221,257
自己株式	47,296	53,489
株主資本合計	1,935,541	1,969,568
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,409	11,507
その他の包括利益累計額合計	13,409	11,507
純資産合計	1,948,950	1,981,076
負債純資産合計	3,933,469	4,095,191

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	1,683,857	1,546,078
売上原価	720,856	715,393
売上総利益	963,000	830,685
販売費及び一般管理費	953,468	756,739
営業利益	9,532	73,946
営業外収益		
受取利息	626	1,949
受取配当金	88	97
協賛金収入	1,538	1,557
違約金収入	2,871	2,371
その他	3,152	2,536
営業外収益合計	8,276	8,512
営業外費用		
支払利息	13,256	12,189
その他	1,649	844
営業外費用合計	14,905	13,034
経常利益	2,902	69,424
特別利益		
固定資産売却益	54	1,477
特別利益合計	54	1,477
特別損失		
固定資産除却損	1,156	4,080
減損損失	1,273	-
特別損失合計	2,430	4,080
税金等調整前四半期純利益	527	66,821
法人税、住民税及び事業税	18,778	19,732
法人税等調整額	30,058	6,870
法人税等合計	48,837	26,602
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	48,310	40,219
四半期純利益又は四半期純損失()	48,310	40,219

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	48,310	40,219
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,649	1,901
その他の包括利益合計	3,649	1,901
四半期包括利益	44,660	38,318
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	44,660	38,318
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	92,963千円	84,178千円
のれんの償却額	14,944	14,944

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	外食事業	不動産 賃貸事業	外販事 業	計				
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	1,554,636	41,302	83,297	1,679,236	4,620	1,683,857	-	1,683,857
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	11,894	117	2,942	14,954	-	14,954	14,954	-
計	1,566,531	41,419	86,239	1,694,190	4,620	1,698,811	14,954	1,683,857
セグメント利益 又は損失()	53,786	18,541	27,683	44,644	633	45,277	35,745	9,532

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食店用の厨房設備の販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 35,745千円には、セグメント間取引消去873千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 36,619千円等が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「外食事業」において、継続的に営業損失を計上している店舗資産につきまして、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、1,273千円を減損損失として特別損失に計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	外食事業	不動産 賃貸事業	外販事 業	計				
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	1,410,268	41,228	82,865	1,534,362	11,716	1,546,078	-	1,546,078
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	13,085	117	2,662	15,865	-	15,865	15,865	-
計	1,423,353	41,345	85,528	1,550,227	11,716	1,561,943	15,865	1,546,078
セグメント利益 又は損失()	109,841	20,050	23,164	106,727	1,961	108,689	34,743	73,946

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食店用の厨房設備の販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 34,743千円には、セグメント間取引消去679千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 35,422千円等が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ()	12円94銭	11円15銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	48,310	40,219
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	48,310	40,219
普通株式の期中平均株式数(株)	3,733,000	3,607,028

- (注) 1. 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
また、当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月14日

ワイエスフード株式会社

取締役会 御中

三優監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 吉川 秀嗣 印

業務執行社員 公認会計士 堤 剣吾 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているワイエスフード株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ワイエスフード株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。